



# JFVSS Newsletter

## 大学病院の雰囲気

日本はまだまだ残暑の厳しいころかと思います。今年はこちら暑い夏が続いていますが日本にいる皆様に比べると蒸し暑くもなく心地良いので文句を言っでは怒られますね。無事2期生もこちらに到着しましたので今後はお互い切磋琢磨して頑張っていきたいと思っています。

アメリカでの診察を始めて早1年ですが、こちらに来る前のアメリカのイメージと違う意外だった点がいくつかあります。個人的なイメージとしては、意欲&能力のある人は身分関係なくいろいろな機会を与えられる平等な社会（表向きは）、効率重視で自分と他人の仕事は分別し働く個人主義という感じで思っていました。他の大学ではまた違うのかもしれませんが、こちらで感じたのは病院内が結構縦社会な点。レジデントーインターン（フェロー）ー学生間にいろいろ暗黙の了解的な壁が存在しています。学生はまだ獣医師ではないので分からなくもないですが、レジデントとインターンでもやらしてもらえな事がきっぱり分かれてますし（内科ではインターンは自分の症例でも内視鏡関係は一切触らせてもらえない）、周りからの扱い方も肩書きで結構変わります。人からのお願いは無茶ぶりでもNoとは言わない体育会系的なノリもありますし、周りの空気を読んでお互い助け合うなどのチームワークもとても重視します。こういう気質は結構日本人には向いているので、言葉の壁がクリアできれば日本人がこちらで働き始めてもそんなに違和感なく仕事をこなしていけるのかもしれませんが。縦社会と言っても上の人が偉そうにしているという分けでは決してなく、しっかりした教育システムの中で専門医を取るまで努力した人に対して周りが自然と敬意を払っているという感じでしょうか。JFVSSプログラムを通じて将来日本の獣医教育システムがより充実し、世界に通用する専門医が少しずつ増えていくといいですね。



佐藤 雅彦